

文化庁 令和6年度「Innovate MUSEUM事業」

「博物館を中心とした広域連携に基づく民俗資料の魅力発信事業」

通称「宮城民俗コモンズ」の取り組み

東北歴史博物館（阿子島香・今井雅之）

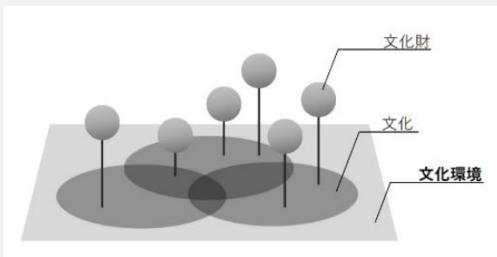


事業実施に至る経緯

宮城県文化財保存活用大綱

【基本理念】

永続的な文化環境の維持と創出
-知つて、活かして、伝える文化財-



【基本方針】

- 方針1 文化財を守り育む土台をつくる
- 方針2 文化財を適切に理解する
- 方針3 文化財を循環型社会システムに組み込む
- 方針4 文化財の災害対応力を高める

東北歴史博物館の使命と目標

【使命】

1. 東北の姿を自ら再発見し、東北の存在を広く世界に発信することにより、国際化の時代にふさわしい地域づくりとその活性化に貢献します



【目標】

6. 幅広く交流する博物館
東北全域さらには全国的な視野に立った
積極的な交流を図る博物館を目指します

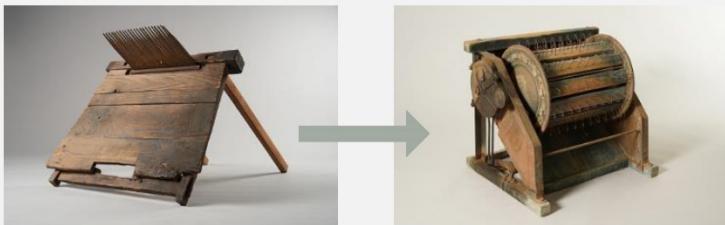
民俗資料の意義

民俗文化財の観点から

【定義】

衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が**國民の生活の推移の理解**のため**欠くことのできないもの**

(文化財保護法第二条第三項)



※ 6項目の中で唯一「価値が高い」と明記されない
⇒ 意識的に「価値」を共有する必要がある

博物館資料の観点から

【意義】

民具の存在意義は過去の解明だけにあるのではなく、適切に活用すれば、**現在**の、そして**未来**の地域住民にとっても大きな意義を持つものです。

民具には何世代にも渡って洗練されてきたデザインや機能性が備わっており、地域に根差した自然素材が利用されています。SDGsや多様性の理念にも合致しており、現代社会にも十分生かしうる知恵や技が結晶化されているのです。

急速にグローバル化し、平準化する現代社会において、**地域アイデンティティ**や**オリジナリティ**の核となりうる、ほとんど唯一の文化財ともいえます。

(日本民具学会－民具の廃棄問題に対する声明－)

⇒ 未来の地域づくりの根拠となる資料

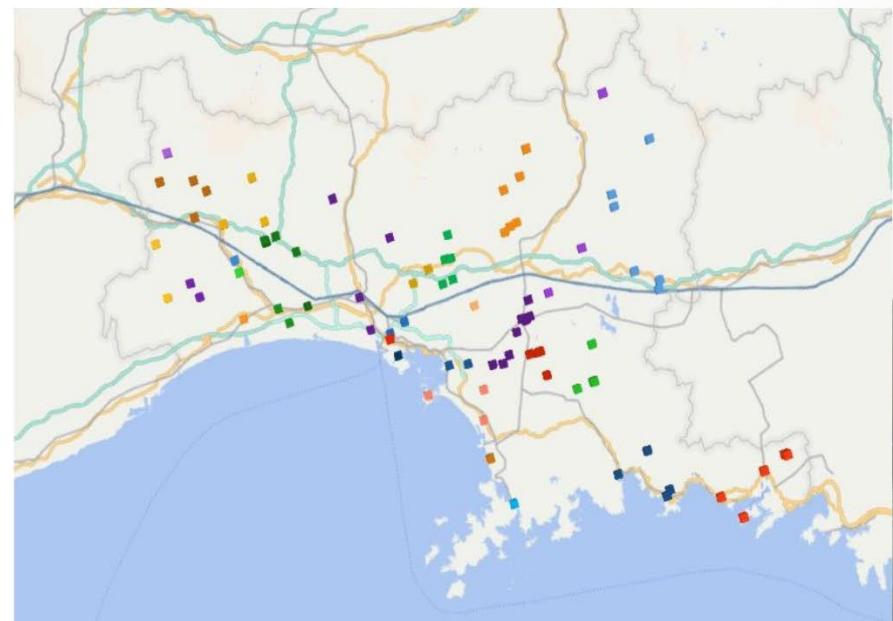
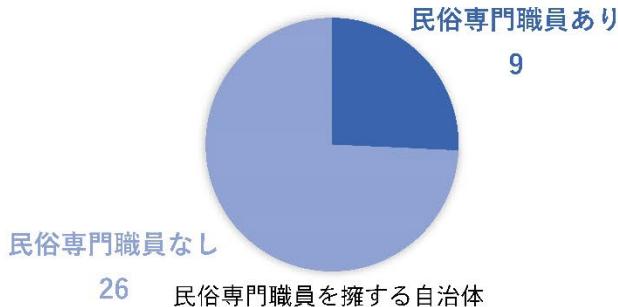
県内民俗資料の現状と課題

1つの「ある」と5つの「ない」

【あるもの】膨大な数の民俗資料

- ・所蔵件数… 213, 706 件 以上
- ・所蔵箇所… 96ヶ所 以上

【ないもの】人・モノ・知識・時間・予算



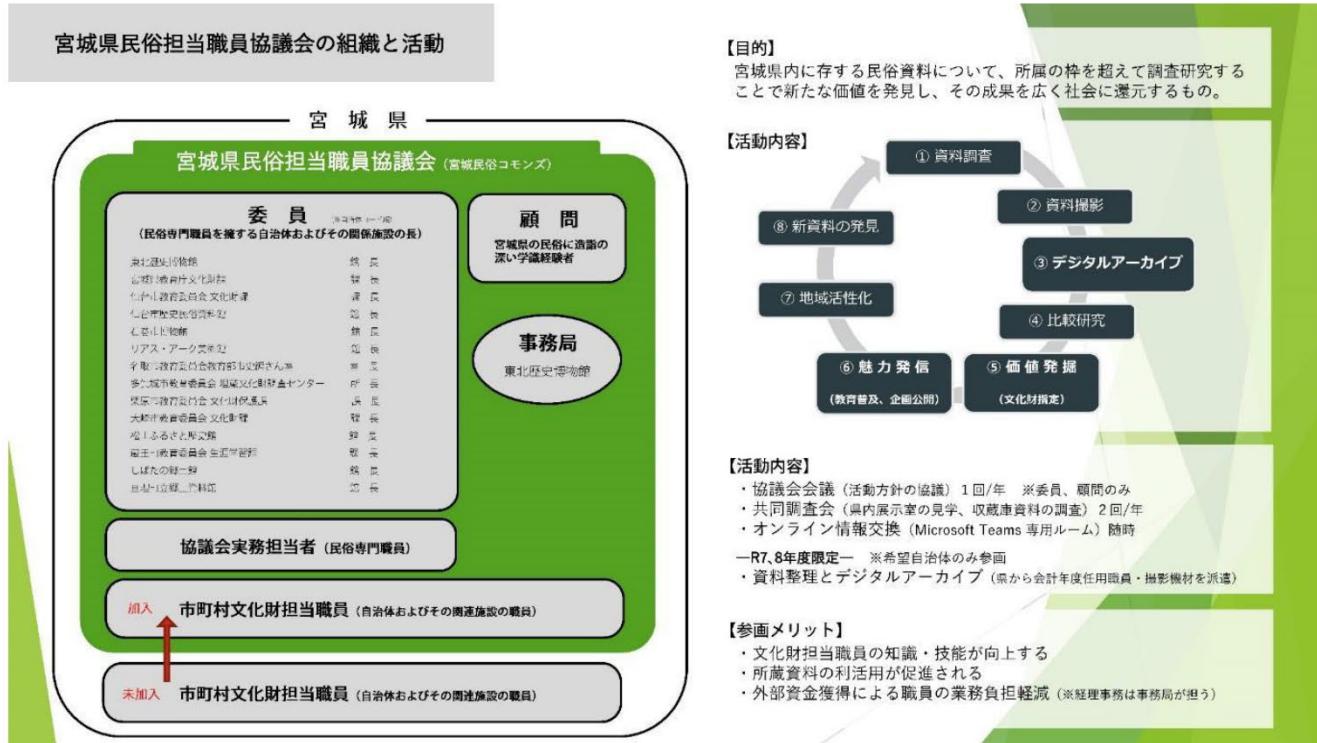
課題解決の方法

自治体の壁・文化財主管課と博物館の壁 を越えたネットワークの形成



⇒リソース（人・モノ・知識）を共有（コモンズ化）せよ!!

宮城民俗コモンズの構成



⇒ 民俗専門職員 (R6) → 県内文化財担当者 (R7) → スキームを全国に提示 (R8)



補助金の意義 – 宮城民俗コモンズは永続を目指す

自治体の壁を越えて一斉に活動するためのスタートアップ資金

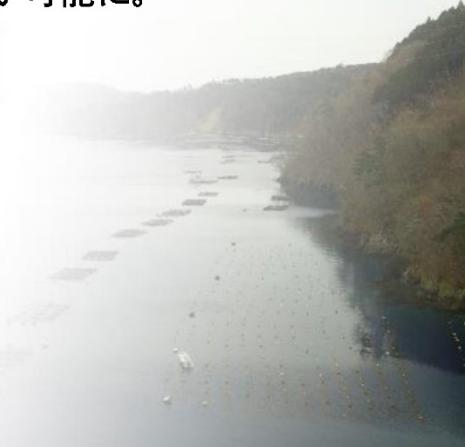
- ・県で会計年度任用職員を雇用し、自治体へ派遣（人件費）
- ・同一の撮影機材を借用・調達し、自治体へ展開（需用費）
- ・プロの撮影技術をマニュアル化、自治体と共有（委託費）

⇒人・モノ・知識をセットで宮城民俗コモンズが提供することで、
行政区域を越えた横断的調査等に対する理解を得やすくなり、事業の動き出しが可能に。

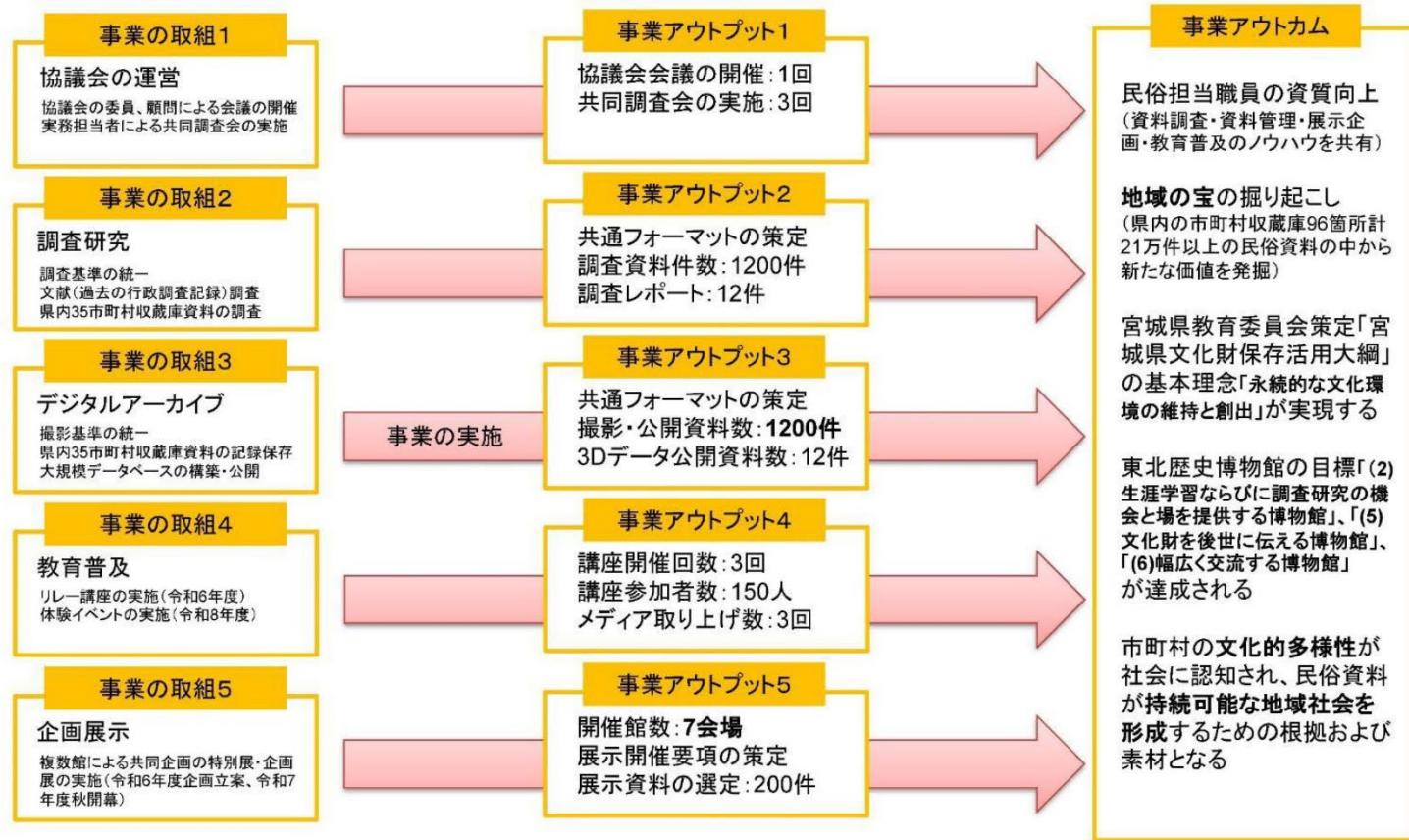
Innovate MUSEUM事業

2023年4月に、約70年ぶりに大きく改正された博物館法が施行されました。博物館資料のデジタル・アーカイブ化や業務のDX等、これからの博物館に新たに求められる課題に対応する取組を支援します。

画像引用 <https://innovatemuseum.bunka.go.jp/>



補助事業の概要



実施事業 1 協議会の運営

協議会会議－ネットワークを構成する機関の長が集まり、活動方針や内容について議論



実施事業 1 協議会の運営

共同調査会—県内の民俗担当職員が集まり、県内各地の収蔵資料を共同で調査



実施事業 2 調査研究

行政調査記録の調査－昭和50年緊急民俗分布調査の調査票等をスキャンしWEB上で共有



実施事業 2 調査研究

市町村収蔵庫の調査—県内の民俗収蔵庫を訪問し、収蔵資料や保存状況を把握



実施事業 3 デジタルアーカイブ

巡回撮影－委託業者が市町村収蔵庫を巡回し、各地で手本となる撮影を実施



実施事業3 デジタルアーカイブ

撮影基準表の作成—質の高い写真を最低限の知識や技術で撮影するためのマニュアル

別紙2

撮影の留意点（自前撮影用）

人物記入して、資料を識別せないことを極端化をお考へ下さい。

○資料を撮影する前に

- 通常まで先行して同様の資料が提出されていないか確認する
- 撮影基準表の通過分析を理解し、タイミングのパターンを把握する

○資料の置き方

- 資料を載せる場所によく紙面、持つべき箇所を吟味する
- 資料を持ち、上下両脇左右を確認する（思われる場所に位置や抜けがある）
- 資料の特性がよくされているアングルを考える
- 資料が中央（画面で小さく）へアドリフト順序の「」に置く（資料収集の場合は上と並んで置く）
- 資料が背景紙に対して左・右どちらに配置する（30°・45°・60°に把けて操作する場合は同じしたタイミングを利用する）

○カメラの位置

- 資料がカメラグリッドの内側オフセットに収まる
場所まで貪り下げる
(資料がない場合は斜め、範囲内には載らな)
(資料が画面を大きく超える場合は、左で上)
- 二回も伸びぬきでカメラの向きを改め、撮影する角度を調整する
- 資料の重心が、画面中央より少し下に来るよう
に微調整する

○ライトの調節

- 標準露出順序および通常撮影者のタイミングを参考にして、ライトの位置、高さ、角度を決める
- ライトのみでは必要な部分に光が当らない場合、レフ板を活用する

○写真的撮影

- シャッターを押す押し、ピントが切になったことを確認したときシャッターワーク（次の写真がカメラ本体が動くときにわざわざと押す）
- セルフタイマーが作動し、2秒間から複数秒間隔で撮影されるのを控守る
- 再生ボタンを押し、C3ボタンで拡大してピントが合っているかを確認する

資料技術ヨコミズ撮影基準カード

ISO: 100 F: 8 SS: 下記の通り 資料名: カテカリ

1カット目 後 SS 秒 左 右 前

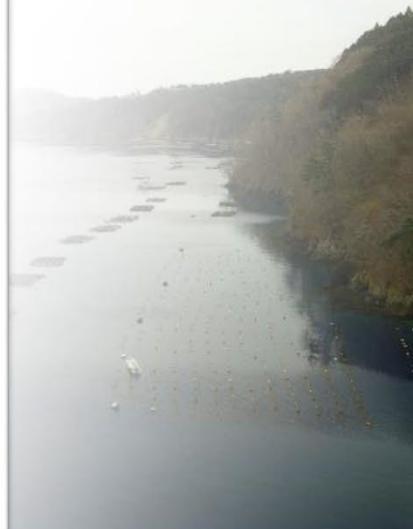
2カット目 後 SS 秒 左 右 前

3カット目 後 SS 秒 左 右 前

計測箇所

資料の置き方 (Nikon D7000用撮影ガイド参考)

記入記号	資料	高さの基準
○	資料	正面(表面) 0
⇒	カメラ	背面(裏面) 1
→	メインライト	右側面 2
→	サブライト	三脚台ばかり 0
—	レフ板	左側面 3
—		左60° 右30° 4
—		左45° 右45° 5
—		3段伸ばし 3 左30° 右60° 6
—		3段+首全脚 4 その他 7 ()



実施事業 3 デジタルアーカイブ

自前撮影—民俗専門職員と派遣職員が、共通の基準にもとづき撮影を実施



実施事業 3 デジタルアーカイブ

「宮城の民具」一県内10自治体、1000件、3000カット以上のデジタルアーカイブ

宮城の指定文化財

宮城の無形文化遺産

宮城の民具

宮城民俗コモンズ デジタルアーカイブ

宮城の民具

資料を見る >



WEBサイトはこちらから



実施事業 3 デジタルアーカイブ

データ利用の促進—画像にクリエイティブ・コモンズライセンス（CC）を付与

The screenshot shows a dark-themed web page for the Miyagi Folk Digital Archive. At the top, there's a header with the text "宮城の民具" (Miyagi Folk Crafts) and a logo. Below the header, a main image shows two traditional wooden boxes. To the right of the image is a detailed description of the object, including its name "かまぼこ盛籠" (Kamaboko Bento Box), origin ("亘理町立理町字日館"), and a detailed explanation of its construction and history. Technical details like dimensions (width 237mm, height 95mm, depth 182mm) and weight (237mm x 89.9mm x 151mm) are provided. The page also includes a "拡大" (Zoom) button and several smaller thumbnail images of the object from different angles.

誰もが申請不要で高画質画像をダウンロードし、自由に活用することが可能



実施事業 4 教育普及

リレー講座－調査研究の成果を講座形式（オンライン併用）で社会と共有



実施事業4 教育普及

学校教育との連携－小学校社会科との対応

R7秋の特別展の構成と学習指導要領を対応させることで、博物館の学校団体利用を喚起

第一部 宮城県のモノ語り

第一章 土地の豊かさを生きる

海では漁業、平野では農業など、私たちが環境の特徴を生かした仕事を営んできたことを示します。学習指導要領の「特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること（小学校第4学年 社会）」などの一助となります。

主な展示資料：いか釣りの仕掛け・糸車・竹細工工程品・鍔

第二章 時のうつろいを生きる

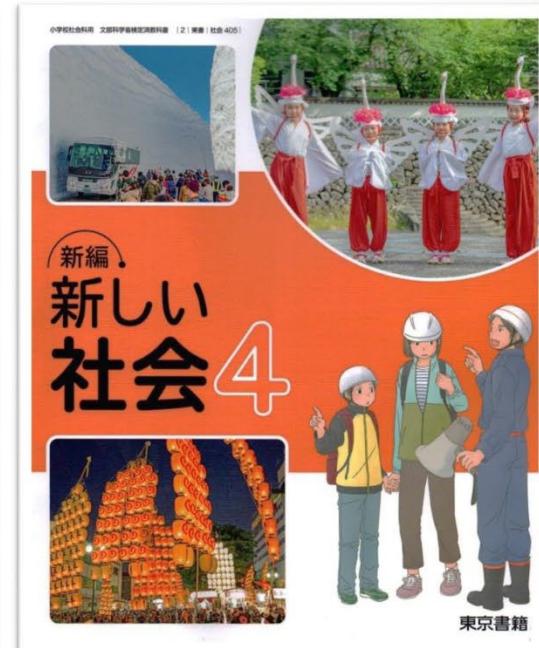
お正月などの年の節目や、結婚などの人生の転換点があるように、私たちが時間の流れの中でさまざまな行事をおこなってきたことを示します。学習指導要領の「県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること（小学校第4学年 社会）」などの一助となります。

主な展示資料：ランプ・正月飾り・婚礼用衣装・オシラサマ

第二部 35市町村のモノ語り

県内の全35市町村に収蔵・展示されている民俗資料が一堂に集います。学習指導要領の「身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること（小学校第3学年 社会）」などの一助となります。

主な展示資料：堤人形（仙台市）・カマ神（大崎市）・ウナギ漁用具（松島町）



実施事業 5 企画展示

パネル展示—デジタルアーカイブへの導入として県内 5 か所で同時期開催

**宮城民俗コモンズ
活動紹介**

宮城民俗コモンズとは

「宮城の民具（くみぐ）といふべき」とは、人々が日常生活で使ふてたり、使用してきたもののことです。暮らしに馴染いたこれらの民具は、人々の生活、その土地の風土をうながすものであつた。そなへて、これらは、その土地の文化や歴史をうながすものであつた。それは、その土地の人々の心をうながすものであつた。それが、その土地の人々の心をうながすものであつた。

開設当初は地場産業「日用品」を中心とした展示室から、洋服の販賣として古物を販賣した。しかし、それらの商品はどれかう、これらを古物と見なして販賣したことと異議を唱げられたり、また、古物取引では、古物の価値を算定する方法が決まらないといふ問題が発生したりする。そのため、古物の販賣をやめざましに止めることになった。

そこで彼らは、これまで古物を購入して古物を販賣したり、多くの人々と一緒に古物を売ったのに、手数料を支払う「宮城民俗コモンズ」を立ち上げました。このコモンズには、古物の販賣や古物の買取などを除き、古物の販賣をしてしまはずむなど古物を諦めています。

**民俗資料の価値を発掘し
広く社会と共有するために**



宮城民俗コモンズ
運営会員
大丸井
大丸井株式会社
大丸井株式会社



実施事業 5 企画展示

「宮城に生きる民俗」—県内7館同時期開催展示（R7秋開幕予定）



特別展・企画展「宮城に生きる民俗」開催会場

- ・東北歴史博物館
- ・しばたの郷土館
- ・名取市歴史民俗資料館
- ・多賀城市埋蔵文化財調査センター
- ・大崎市図書館
- ・松山ふるさと歴史館
- ・石巻市博物館



成果と課題

成果

- ・ネットワーク基盤の形成
- ・調査・記録ノウハウの確立と横展開
- ・広域的かつ持続的なデジタルアーカイブ

課題

- ・ネットワークの拡大と強化
- ・デジタルアーカイブ対象自治体の増加
- ・実物資料の魅力発信



民俗資料の価値を発掘し、広く社会と共有するために



ご清聴ありがとうございました。